

学校再編だより

干潟中学校

—第5号—

—保護者と地域の協働による検討会議—

令和7年12月発行

旭市教育委員会教育総務課 学校再編室

干潟中学校地域検討会議の検討結果

琴田小・共和小・中和小・萬歳小・古城小の5つの学区を対象に、中学校を新設することに「賛成多数」となった。

10月27日、12月1日午後6時30分からひかた市民センターにおいて、第4回、第5回干潟中学校地域検討会議を開催しました。

会議では、干潟中学校地域検討会議としての検討結果をまとめた報告書（案）について最終確認をしました。

学校再編基本方針の内容に対する委員の意見として「5つの学区だけでは生徒が少ないので干潟小や豊畑小も学区に入れてほしい」、「数十年後また同じような話し合いが始まり、お金が無駄だと思うので1回考え直したほうがいい」などの反対意見があった一方で、「今何ができるかを考えると基本方針通り進めたほうが上手くいくと思う」、「新築で建てておけば、将来的にまた統合になったとしても活用できる」、「南統合中との人数差は気になるが、現状のまま干潟中が残るよりは琴田・共和を含んで新設したほうがいい」、「単学級では充実した学校生活が送れないので早期に進めてもらいたい」などの賛成意見が多い結果となりました。

今回の会議をもって、干潟中学校地域検討会議は終了となります。

今後は、各地域検討会議の代表者で構成する代表者会議を設置し、それぞれの検討結果を持ち寄り、最終的な賛否について審議します。

【参考】第二中学校（琴田小・共和小）地域検討会議の検討結果

琴田小・共和小・中和小・萬歳小・古城小の5つの学区を対象に、中学校を新設することに「反対多数」となった。

第1回代表者会議開催予定 日時：令和8年1月26日（月）午後6時30分から
場所：ひかた市民センター

※この会議は傍聴することができますが、会場内のスペースの関係により定員を10名とします。あらかじめご了承ください。

【検討の経緯と理由】 ※報告書抜粋

干潟中学校は、昭和22年の創立以来、2回の統合といった変遷をたどりながら、地域と共に歩んできた歴史と伝統があり、地域に根付き親しまれてきた。

少子化の影響により、令和7年度の生徒数は142名（6学級）となり、各学年単学級になることが現実的となっている。

会議の中では、魅力的な新しい学校づくりを望む意見や、生徒数の減少を踏まえると統合自体は賛成という意見があった一方で、5つの学区だけで中学校を新設することについては、統合後の生徒数のバランスや中学校の新築費用を懸念する意見があった。

検討の結果、旭市学校再編基本方針のとおり、琴田小・共和小・中和小・萬歳小・古城小の5つの学区を対象に、中学校を新設することに対しては、学区の見直しを求める意見があったものの、早期の再編を望むことから「賛成」とする意見が多い結果となった。

----- 地域検討会議終了後の流れ -----

